

聖州北西沿線の
旅を終へて

てゐないが、道巾と云ひ、家並を具備して居る、郡役場、警察署、学校、病院、寺院、銀行等の建物あり、公園、活動寫真館等の娛樂場もある、學校には日本人經營の學園(寄宿舎)がある。目的は我が第二世より有爲な人物を出すと云ふにある、私は確かにその成功を祈ります、伯父に於ける我が同胞の地歩は、將來必ずや此の第二世に待たねばならぬとして、此の地には日本人の店も随分發展してゐる、將來益々有望と認めざるを得ませんでした。カミニヨンに乗りながら、街の大通りを過ぎて、左に曲り右に折れて町外に出ました、町を出て最初に感じたのは道路の安固なことだった、乗合の人々の口々からも此の道路の話が面白く出た、ヤンベーからリヌスまでの道路の険悪にくく比べて、ピリグキまで平々坦せなど一つも見當らない、恰もコンクリートの上を快走してゐる、そして凸凹、水溜、砂寄せなど一つも見當らない、恰も線路上に添ふて百幾十基と續いてゐる様な感じで、少しも車の動搖を来たさなかつたのは痛快至極でありました、是れと云ふも、前者は砂質壤土であり、後者は粘土質壤土であるからで、昔は砂質壤土であるからで、アーラ・ソツツー・バ行の分れ道の所で道路税を徴収せられたことである日本で云へば昔の關所格で、此の税金を拂はなければボルトン明を開かない、聞けば此處から私設道路に這入ると云ふのは、ベンナボリスから五キロ入つて、ソロカ・バナ行アーラ・ソツツー・バ行の分れ道の所で道路税を徴収せられたことである最も金を取るだけ道路が立派で修繕也能く行き届いてゐると思ひました。

日本人好の許にて
耕主の許にて
山本馬吉

本合計六萬本、附屬間作物、家屋建物、農具、貨物自動車、飼養豚大小三十八頭全部を、前契約の代價地として交付を受けたのみならず、同耕地支配人は前切を任せられた、以來専心珈琲生の手入れ、コロニヤの整理、マングロン、水車の新設等短期間に於て當耕地は面目を一新するに至り、本年一月耕主より支配人に引上げ、オウリヨダアグア耕地は遂に我々日本人の手に一いつ切を任せられた。耕地に引上げ、オウリヨダアグア耕地は遂に我々日本人の手に一いつ切を任せられた。耕地に引上げ、オウリヨダアグア耕地は遂に我々日本人の手に一いつ切を任せられた。耕地に引上げ、オウリヨダアグア耕地は遂に我々日本人の手に一いつ切を任せられた。

日本人好みの
耕主の許にて

白井北バラナ事務所移轉廣告

KAITO USSUI CAIXA POSTAL ,9

內客地山賣

サンバウロバラナ線延長線工事は長足の前進をなし本年末にはコンゴンニヤス植民地のキロメートル百二十五の驛が開通する事に決定しました、それで私は皆々様當地御發展により以上の便を計る爲に北バラナ珈琲地帶中心地たるラランジンニヤ植民地内のバンディラントエス町に事務所を移轉しましたから御視察の際はオウリンニヨスより直接バンディランテス驛に御來車が便利であります又カンバラ市に御立寄りの御方は白岩旅館内の測量師齊藤欽作氏を御尋ね下さい。

何故に不景氣でも北バラナの土地殊に
當事務所の周旋する土地はドンぐ賣（れ行）？

第一、地券確實で土地安價、支拂方法便利、おまけに霜害なき最上
第二、驛に近く交通四通八達、健康地帶のみを選擇して御世話をする
第三、北バラナは生産が他に比し二倍乃至五倍で不景氣が續く程將來有望



手から降りて来る自動車の光り
身も心も熔かして
あがりそうなく乾いた道も
夕陽に暮すカンボの樹影に埃
つぼく落げつて、時には赤蟻
列が道を横切つて彼等の勞働
夕暗の迫つて来る中に動かなか
つた。降りきった谷峠の流れに
は葉の面は赤褐色の土に塗れて
立てば懸れる、西側の草や鋸籠
込んだ様な牛の小群が彼等の柔
和な瞳みを送つた。
ピカバウが羽音高く飛んでいつ
たり、道端の芝草の中に何者と
も知れぬ動物のガサガサと音を
立てる。降りきった谷峠の流れに
は薄濁していたが、誰か置いた
が薄く光つていた。
疲れた膝をガクガクさせて橋
の袂から流れに降つてゆける道
を降つていつた。道は急斜面で降つて
いたものか小さなブリキの罐が
水を飲む。馬鹿に疲れを感じて
いた。手を洗ひ、手から降りて
来る自動車の光り

短詩

時報詩壇

晋一郎
短歌

時報詩壇

晋一郎
短歌

時報詩壇

DR. H. SAITO
MEDICO
Rua Inconfidencia, 6-35
BAURU — E. de S. Paulo

士學醫
齋藤等
ノロエスティ線リンス
東洋製麺所
我那覇宗輔

Fabrica de Macarrão
"ORIENTAL"

日本式ウドン
及び素麺

CASA
HONDA
—Guayaquil—

内外品雜貨商

中村旅館
吉田

北西線グワガナラ町
授

極安の白米

味に於て既に定評ある本地方産白米を特價
を以て御註文に應じます。

御一家の經濟上一度御試しを願ひます、こ
とにモジアナ線珈琲耕地在住者へは鐵道運

賃割安之關係上御試しを願ひます

は愈々來月初旬から

御送呈致します

▲此際當植民地視察希望者は一日も早く入植
良案内である當寫真帖の無料送付を左記事務所に申込んで下さい。

イタケテ日本植民地事務所

Companhia Commercial Pastoril e Agricola
Rua São Bento, 33 sob. São Paulo Caixa Postal, 2740

手から降りて来る自動車の光り
身も心も熔かして
あがりそうなく乾いた道も
夕陽に暮すカンボの樹影に埃
立てば懸れる、西側の草や鋸籠
は葉の面は赤褐色の土に塗れて
立てる。降りきった谷峠の流れに
は薄濁していたが、誰か置いた
が薄く光つていた。
疲れた膝をガクガクさせて橋
の袂から流れに降つてゆける道
を降つていつた。道は急斜面で降つて
いたものか小さなブリキの罐が
水を飲む。馬鹿に疲れを感じて
いた。手を洗ひ、手から降りて
来る自動車の光り

S. R. 生
夕陽がカンボの樹々の間から赤い斜光を送つてゐる。小驛に急いで彼の足は落ちかかる夕陽に引かれてもある様に進まなかつた。乾燥き切つた、棘土の自動車の中を走つてゐた。小驛に急いで彼の足は落ちかかる夕陽に引かれてもある様に進まなかつた。

乾燥き切つた、棘土の自動車の中を走つてゐた。小驛に急いで彼の足は落ちかかる夕陽に引かれてもある様に進まなかつた。

無產黨を打つて
一丸こなす

▲ 日本近信▼

全國大衆黨の結黨なる

日本大衆黨、全國民衆黨、全國

(廿三日東京電報)

協議會の無產派三黨合組結黨大會は芝の協調會館で開催された

新黨名は全國大衆黨と命名し、

黨主は麻生久氏、書記長三輪壽

莊氏と決

政策中の権院廢止、帷幄上奏

權廢止の二項目は内務省當局に

より削除を命ぜられた、今回の

三派合同は日本全國無產派の大

合の先驅と見られ、各方面的

注視を受けつゝある

(日本紐電報)

最近活動期に入りし淺間山は、甘日午前九時半大爆發を起し同

時に激震を伴ひ、熔岩の流出甚

しく、噴火口を距る六百米の地

點にて登山中の六名(内二名女

子)は慘死せしもの如く、未

だ詳細なる模様判明せず(二十

吉原飛行士の歐亞連絡飛行は廿

午前五時四十四分テンペルホ

ーフ飛行場を出發した、廿一日モス

無事モスクワ着(二十一日モスコウ電報)

六大臣夫人が細民へ白米を

吉原飛行士の歐亞連絡飛行は廿

午前五時四十四分テンペルホ

ーフ飛行場を出發した、廿一日モス

無事モスクワ着(二十一日モスコウ電報)

巴里—東京間飛行

吉原飛行士の歐亞連絡飛行は廿

午前五時四十四分テンペルホ

ーフ飛行場を出發した、廿一日モス

無事モスクワ着(二十一日モスコウ電報)

吉原飛行士の歐亞連絡飛行は廿

午前五時四十四分テンペルホ

ーフ飛行場

宮本武藏之巻 (十二)

道で馬に乗った時、馬子の少年が、人並ならぬ面龐に何か見所があると思つた武藏は、馬上から神々と話しかけた。そしてその親が浪人して困窮してゐるのを訪ね、若干の金を與へて次男養子とした。

二人共、武藏の見込みだ通り仕込んで見るところ天稟の才能はめきと現はれて來た。

武藏は尙ほ二人を引連れて巡遊したが播州姫路の城主・本多中務大輔忠政に招かれて、その非凡の技を見せ、本多侯からしきりに仕官を勧められた時、それではと云つて次男の造酒之助を止め置いた。造酒之助は年少に似はぬ非凡の腕前で君侯のお兵共に天晴れの人物になつてゐたからである。

本多家に仕へた造酒之助は年少の爲として暇を貰つて旅に出て、主君の苦境所に切腹殉死を遂げてしまつた。慧眼の武藏先から歸り、それとなく養父、武藏義兄・八五郎に暇乞ひしたと聞くと、造酒之助は直に取り立てたが、寺尾求馬之助は越をして、主君の苦境所に切腹殉死をして、主君の苦境所に切腹殉死を遂げてしまつた。慧眼の武藏には前々から、造酒之助の心が見えてゐたのである。有名な「五輪の書」は越後肥後五十四萬石に加増國更の道が説いてある。

京太夫に代つてゐた、前藩主細川越中守は、豊前四十萬石から地水火風空の各部各様の道が説いてある。

【五輪の書】は五ヶ條に分かれます。

【武藏傳】は今回を以て終り、次回は伊東一刀斎の巻を掲載いたします。



されてゐた。小倉は小二郎との試合で殊に評判の所だったからなく、養子八五郎を推薦して此處を去つた。

やうと百方意を盡したので止むなく、養子八五郎を推荐して此處を去つた。

小笠原侯はしさりに武藏を止め、伊織と改名し、武術才智共に優れたのである。

次第に重く用ひられ、遂に家老の親が浪人して困窮してゐるのと云ふ。

この八五郎は後に伊織と改名し、武藏の後魂に感得すべしとある。

次第に重く用ひられ、遂に家老の親が浪人して困窮してゐるのと云ふ。

この八五郎は後に伊織と改名し、武術才智共に優れたのである。

次第に重く用ひられ、遂に家老の親が浪人して困窮してゐるのと云ふ。

この八五郎は後に伊織と改名し、